

北部の名峰を結び大展望を楽しむ

中ア 木曾駒ガ岳～宝剣岳～空木岳

実施日 2009年8月30日(日)～9月1日(火)

天候 曇り/晴れ

リーダー 馬場 清士

参加者 斎恵美子、馬場清士、島本陳重、
金本英雄 計 4名

費用 交通費 13,920円(八王子起算)

宿泊費 16,000円 計 29,920円

タイム 30日 駒ヶ根駅(11:00バス)しら
び平(11:45~13:00 ロープウ
エイ)千畳敷(13:08)宝剣山
荘(14:00)中岳(14:17)木
曾駒ガ岳(14:35~14:50)

宝剣山荘(15:20) 泊

31日 宝剣山荘(6:20)宝剣岳
(6:40)極楽平(7:40)島田
娘(7:50)濁沢大峰鞍部
(9:35)檜尾岳(10:25)熊
沢岳(12:15~12:20)東川
岳(13:55~14:05)木曾殿
山荘(14:25) 泊1日 木曾殿山荘(5:40)空木岳
(7:10~8:00)大地獄
(10:00)池山小屋水場
(11:35~11:50)林道終点
(12:50)菅ノ台BS(13:50)

台風11号が29日、父島の東を北北西に進み、31日には関東に接近する予報の中、撤退を覚悟のうえで実施した。駒ヶ岳ロープウェイの千畳敷駅を降りると、目前に千畳敷カールが広がり左上に屹立する宝剣岳が望める。

カールの遊歩



道には多くの観光の人々が見える。

カールからは観光の人々と一緒に八丁坂を登り乗越浄土に出る。宝剣山荘にザックを置き木曾駒ガ岳へ向かう。一のぼりすると中岳、此处からは木曾駒の雄姿が見え、振り返ると急峻な宝剣岳北西壁が見える。木曾駒の山頂からは、宝剣岳はじめ明日行く稜線が望めた。



宝剣山荘に戻り宿泊の手続きを済ますと、台風の影響でキャンセルが有り本日の宿泊客は8名、ラッキー！と心の中で叫んでしまった。山荘の裏手から宝剣岳、天狗岩、三ノ沢岳が望めるが、天気は下降気味なのか夕焼け空は「何処行ったア～」早めの夕食を済ませて貸切りの部屋で明日の天気を祈りながら、オヤスミナサイ・・・

31日 4時起床、星空どころか雲が低く垂れ込めて霧雨が落ちている、ガックリだ。メンバーも山荘を出たり入ったり、空を見上げたり、ため息をついたり忙しない。取り合えず朝食を済ませテレビの天気予報を待つ、霧は濃いが僅かに東の空に雲の切れ目が見える。

天気予報から判断して、木曾山脈への影響は少ないと考え6時20分に出発した。

山荘を出て天狗岩の左側から北稜に取り付き、クサリが掛かる岩場を慎重に登ると宝剣山頂だ。霧は無く雲は低い切れてきた。眼下に町並みが望めるが遠望は利かない。山頂から慎重に南稜を越えて三ノ沢分岐から極楽平に出る。濁沢大峰の鞍部に下り鋭い岩峰クリアしたりト

ラバースしながら岩尾根を通過して行くので緊張の連続だ。檜尾岳を越え岩稜の尾根をアップダウンを繰り返しながら大



滝山を過ぎ熊沢岳に向かう。相変わらず雲が低く遠望は得られないが、尾根筋に

沢山の花々が咲き心和む。

熊沢岳から岩稜の幾つかのピーク越えて東川岳に着く。山頂



からは明日行く空木岳の雄姿が見える。20分も下ると今日の宿泊地、木曾殿山荘だ。やはり台風の影響で宿泊客は8名であった。またまたラッキー！

山荘の夕食は、伝統の山菜炊き込みご飯とおでんだ、いつもあまり食べない齋さんがおかわりをしているのを見てビックリだ。100人位泊れる大部屋にナント8人、快適な夜となった。

1日 4時起床、まだ明けやらぬ空は満天の星空であった。4時半過ぎに朝食を済ませて



東川岳のコルまで登り、素晴らしいご来光を見ることが出来た。

5時40分に山荘を出発、空木岳を目指す。急な岩稜帯をジグザグに高度を稼ぐ、岩場の連続と砂礫地帯は要注意で緊張する。念願の空木岳山頂に来た。

最高だ！南には、昨年越えてきた南駒ヶ岳から越百山への稜線が目前に広がっている。

北には、昨日越えてきた熊沢岳から宝剣岳への稜線が見える。遥か雲海の向こうに、御嶽山、乗鞍岳、八ヶ岳連峰、富士山、南ア、北アも望める。



特徴ある槍穂高が懐かしい。



展望を満喫した後、空木岳から池山尾根を下る。途中の難所、小地獄、大地獄を慎重に通過して池山小屋の水場で大休止を取り駒ヶ根高原までひたすら下った。

宝剣岳の登りから空木岳を下るまで気の抜けない山行であった。こまくさの湯の気持良かったこと・・・参加された皆さん、とてもトテモお疲れ様でした。

(記&写真・馬場 清士)

